

# メキシコ大統領選挙・連邦議会選挙が近づく中、 いまだ妥結に至らないNAFTA再交渉

(北米自由貿易協定)

nikko am  
fund academy

楽読(ラクヨミ)

メキシコ・ペソが足もとで再度、軟調に推移しています。この背景として、長期金利の上昇などに伴ない米ドルが強含む一方、新興国通貨に売り圧力が及んでいること以外に、7月1日のメキシコ大統領選挙・連邦議会選挙が近づいていることや、米国、カナダ、メキシコ間でのNAFTA再交渉が長引いていることなどが挙げられます。

メキシコの大統領選挙については、前・現政権の治安対策の失敗や汚職の蔓延を厳しく追及する、左派のロペスオブラドル元メキシコシティ市長が世論調査で他を大きくリードしているほか、連邦議会選挙についても、同氏率いる新興左派政党MORENA(国家再生運動)の躍進が世論調査で示唆されています。こうした中、ばらまき型の財政政策や、ペニャニエト現政権が進めてきた構造改革の見直しなど、ロペスオブラドル氏の大衆迎合的な政策への懸念が市場で強まっています。なお、MORENAと、選挙連合を組む他2党を合わせても、議席の過半数獲得は難しく、議会の3分の2以上の賛成での憲法改正が必要な構造改革廃止は困難な情勢です。それでも、上下両院で最大勢力となれば、構造改革を停滞させることは可能とされています。

米国の対メキシコ貿易赤字などを問題視するトランプ米大統領の要求で始まったNAFTA再交渉については、7月のメキシコの選挙前に妥結しなければ、新政権の下で事実上、仕切り直しとなる可能性があり、不透明感が続くこととなります。また、同選挙前に妥結するとしても、向こう数日中でなければ、交渉結果が米国の議会にかけられるのが来年となってしまいます。米国では、与党に不利とされる中間選挙が今年11月にあるため、来年の議会・下院では与党・共和党が過半数割れとなる可能性が高く、議会承認を得るのは難しいとみられています。

このように、メキシコでは、左派政権誕生の可能性が高く、政策面で先行き不透明感が強いほか、NAFTA再交渉が早期に妥結しなければ、対米関係面でも不透明感が続く可能性があります。これらは、メキシコ・ペソの押し下げ要因となるだけでなく、企業の投資や、海外からメキシコへの直接投資の手控えなどを通じて、同国景気に悪影響を及ぼすことも考えられるだけに、今後の選挙戦やNAFTA再交渉の動向が引き続き注目されます。

## メキシコ・ペソの推移



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

## メキシコの実質GDPと金利・物価の推移



※上記は過去のものおよび予想であり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。